

備前市事務事業評価シート

(平成20年度事業)

事業の概要			
事業開始年度 昭46年～			
総合計画	大項目	基本目標	04 もてなしの心とたくましさのあるまちづくり
	中項目	基本施策	01 豊かな食を支えるまちづくり
	小項目	施策	02 林業
事務事業名			01 林道整備事業
根拠法令・規程等			森林法
問 担当課(室)			農林水産課
合 職・氏名			耕地治山係長 小川勝巳
先 電話			0869-64-1830

事業の実施	
対 象 (誰・何に対して)	林道利用者、森林所有者
目 的 (何のために)	林道を整備することにより森林の防火を図り、地域住民の生活道として利便性及び安全性を高め、また維持管理を行い林道の保全及び災害の防止に努めることを目的とする。
行 政 活 動 (どのような方法で)	林道の整備工事(開設・改良)の発注及び維持管理(草刈・修繕等)の実施。
事業の意図する成果 (どのような状態にしたいのか)	林道利用者及び地域住民が安全に通行出来るように、林道の保全及び災害の防止に努めることを成果とする。

事業の実績				
実施項目	単位	平成18年度実績	平成19年度実績	平成20年度実績
林道整備委託	路線	5	9	7
単刈費金	路線	5	9	11
小規模林道整備事業	路線	5	2	2
設計業務委託	路線	1	1	1
修繕	箇所	9	9	10
単独事業	箇所		3	3
事業費				
直接事業費	千円	16,359	18,128	15,492
必要人員人件費	千円	0.78人	0.67人	0.67人
事業費計		22,619	23,151	20,273
財源				
国・県支出金	千円	3,540	4,018	3,016
受益者負担				
繰入金	千円	4,300	6,900	6,300
その他()				
一般財源		14,779	12,233	10,957
受益者負担比率	%			

結果指標名	単位	平成18年度実績	平成19年度実績	平成20年度実績
林道整備委託	説明 林道の維持管理(草刈等)			
結果指標①	路線	5	9	7
対前年比	%	-	180.0%	77.8%
活動コスト	円	1,595,100	2,410,900	1,663,880
単位当たりコスト	円	319,020	267,878	237,697
小規模林道整備事業	説明 林道の開設・改良			
結果指標②	路線	5	2	2
対前年比	%	-	40.0%	100.0%
活動コスト	円	11,068,000	10,874,400	12,175,580
単位当たりコスト	円	2,213,600	5,437,200	6,087,790

事業の成果				
成果指標名	年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
林道(開設・改良)整備率	目標値(A)	23	32	39
	実績値(B)	23	32	40
	達成率(B/A)	100.0%	100.0%	102.6%
到達目標値				
				未定
到達目標年度				
				未定
成果指標設定の考え方・式や説明				
整備延長÷計画延長(平成20年度現在 770m÷1930m)				

事業の目的、対象、内容を考えてから目的妥当性の評価を行って下さい。

事業費や単位当たりコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい。

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性の評価を行って下さい。

事務事業の評価		(平成20年度事業)	
妥当性の評価	市の関与の妥当性	<input type="checkbox"/> 市が実施するよう法令で義務づけられている <input type="checkbox"/> 法令で義務づけられていないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす <input type="checkbox"/> 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない <input type="checkbox"/> 事業の内容が一部の受益者に偏っている <input type="checkbox"/> 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている <input type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である <input checked="" type="checkbox"/> 事業開始当初の目的から変化してきている <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている <input type="checkbox"/> 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある <input type="checkbox"/> 類似した事業がある	妥当性評価<A~E> C 判定理由・課題認識 終年により森林利用者が減り、地域住民の生活道としての必要性が大きくなってきているため、通行に支障をきたさないよう維持管理していく必要がある。
		市民ニーズ	<input type="checkbox"/> 市民・団体等から要望・要請が強い <input type="checkbox"/> 説明
	効率性の評価	コスト	<input type="checkbox"/> 単位当たりコストは前年度と比較して改善している <input type="checkbox"/> 実施方法(派遣・委託)を見直すことでコストを下げる余地がある <input type="checkbox"/> 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある <input checked="" type="checkbox"/> コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい <input type="checkbox"/> 受益者負担率は適正である <input type="checkbox"/> 受益者負担率を見直す余地がある <input type="checkbox"/> サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない <input type="checkbox"/> 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている
目的達成度		<input type="checkbox"/> 成果指標の設定は適切である <input type="checkbox"/> 成果指標の目標値は目標年度に達成できそうである <input checked="" type="checkbox"/> 成果指標達成率は前年度と比較して向上している <input type="checkbox"/> 成果指標達成率は80%未満となっている <input type="checkbox"/> 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない <input type="checkbox"/> 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している <input type="checkbox"/> 事業実施等で積極的に市民意見を反映させる仕組みがある <input type="checkbox"/> 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している <input type="checkbox"/> 事業のプランづくりから市民参加を得る手段をとっている	有効性評価<A~E> C 判定理由・課題認識 現状では、本市の10%程度の林道しか維持管理ができないため、災害防止のためにも現有施設の維持管理をボランティア団体・地域住民等に参加してもらうなどの方法も検討していく必要がある。

平成21年度の状況								
目標値	結果指標量①	林道の維持管理箇所(7箇所)	結果指標量②	林道の整備箇所(1箇所)	成果指標量	林道の整備率(42%)		
状況		拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
説明			○					
林道維持管理事業については、現状を継続する。小規模林道整備事業については、福満線の計画が休止となっているため、八塔寺線の1路線(平成21年度が最終年)のみとなる。								

総合評価	
台帳整理及び林道利用者の調査を行い、現状をきちんと把握した上で優先順位を付けていき、維持管理をして行く中で林道利用者・地域住民等の協力も得ながら、林道の保全及び災害の防止に努めていきたい。	評価区分<A~E> C

平成22年度以降の方向性・内容						
方向性	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止・完了
説明			○			
林道維持管理事業については、現状を継続する。小規模林道整備事業については、福満線の今後の方向性を地元関係者等と協議し決定する。						
改善がある場合	評価の視点	改善内容	改善時期	改善により期待される効果		
改善がある場合	妥当性	利用者の調査	毎年	投資効果、安全性向上		
	有効性	ボランティア団体等の参加依頼	毎年	維持管理の向上		